



校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



あなた自身の「得点パターン」を見つける

にいほり たかひさ
新堀 隆久

みなさんこんにちは。期末考査が終わったら、結果を気にするより復習が大切です。夏休みを使って、苦手分野を克服しましょう。

さて、サッカーワールドカップで日本代表の活躍が続いています。私も試合を楽しみに見っていますが、特に注目しているのが水戸市出身のFW上田綺世選手です。鹿島アントラーズからベルギー、そしてオランダへと活躍の場を広げ、昨シーズンはオランダリーグ得点王を獲得しました。今回のワールドカップでもすでに2得点を挙げています。

上田選手は先日のスウェーデンとの試合後、インタビューに次のように答えていました。「まずは自分たちの準備、しっかりやっていこうと思っています。ここからは1試合、1試合で負けたら終わりという緊張感のある中で、ゲームできるというのは、これ以上ない幸せだし、日本を背負っていい結果を、持って帰れたらなと思います。」

4年前、前回のカタールワールドカップ後には、こんなことを語っていました。「コンディションが悪くても、疲労していても、どこかにチャンスはある。可能性に点を取れない試合はない。その中で点を取れる自分を見出したい」また、レベルの高い環境でプレーするほど、それまで通用していた感覚は通用しなくなる。しかし、その中で新しい得点感覚や得点パターンを身に付けていかなければならない、とも語っています。私はこの言葉を聞いて、進路選択や進路実現にも通じるものがあると感じました。

以前、「人は知っている世界の中からしか進路を選べない」という話を書きました。だからこそ、自分から情報を集め、世界を広げることが大切だと述べました。しかし、情報を集めるだけでは進路は実現しません。大切なのは、その先です。進路先が決まっている人も、まだ迷っている人も、今の自分にできることを積み重ねること、準備をすることが大切です。授業に真剣に取り組むこと、本を読むこと、人と関わること、部活動や学校行事、地域活動に挑戦すること。その一つ一つが、自分自身の力になっていきます。上田選手が「自分の得点パターン」を磨いているように、皆さんも自分自身の強みや可能性を広げていく必要があります。

最初から明確な目標を持っている人ばかりではありません。むしろ、さまざまな経験を積む中で、「これが面白い」「もっとやってみたい」と感じるものに出会い、自分の進む道が見えてくることの方が多いように思います。未来は誰にも分かりません。だからこそ、今でできることに全力で取り組むことが大切です。今日の努力が、明日の自信になります。そして、その積み重ねが、自分だけの「得点パターン」をつくっていきます。

3年生は進路決定に向けた大切な時期を迎えています。1・2年生も決して他人事ではありません。皆さん一人ひとりが、自分だけの強みを見つけ、自分らしい未来を切り拓いていくことを期待しています。



レスリング部インターハイ予選

